

教育講演 1

COVID19のパンデミックを経験して これからの検査室に期待すること



忽那 賢志

大阪大学
医学系研究科 感染制御学講座 教授
医学部附属病院感染制御部 部長
感染症総合教育研究拠点(CiDER) 人材育成部門 副部門長

新型コロナウイルス感染症の流行によって「検査」が一般に知れ渡ることになった。

今や「PCR」や「抗原」といった言葉は、日常的に非医療従事者の間でも使われるものとなっている。

臨床検査技師の感染症診療・感染対策における立ち位置もこれまで以上に注目されている。

一方で、陽性/陰性という結果が患者に与える影響もかつてなく大きくなっている。

精度管理、検査フォローの体制整備、人材育成など次のパンデミックに向けての課題もある。

感染症専門医が考える、臨床検査技師に期待することについて述べたい。

専門分野

新興再興感染症、一般感染症、節足動物媒介感染症、輸入感染症

略歴

2004年 3月 山口大学医学部卒業
2004年 4月 関門医療センター 初期研修医
2006年 4月 山口大学医学部附属病院 先進救急医療センター
2008年10月 奈良県立医科大学附属病院 感染症センター医員
2010年 4月 市立奈良病院 感染症科 医長
2012年 4月 国立国際医療研究センター 国際感染症センター フェロー
2013年10月 同 国際感染症センター 医員
2018年 1月 同 国際感染症センター 国際感染症対策室医長
2021年 7月 大阪大学大学院医学系研究科 感染制御学 教授
大阪大学医学部附属病院 感染制御部 部長
感染症総合教育研究拠点(CiDER) 人材育成部門 副部門長

学位

医学博士(2011年卒 山口大学大学院)

主な役職

厚生労働省 新型コロナウイルス感染症 診療の手引き 編集委員
日本感染症学会 新型コロナウイルス感染症 治療指針 編集委員
東京都 感染症アドバイザー
NPO法人 日本ECMOnet 理事
IDATEN 日本感染症教育研究会 世話人 Kansens Journal 編集長
日本臨床写真学会 会長

主な著作

症例から学ぶ 輸入感染症 A to Z ver2
抗菌薬が効かなくなる ―AMR(薬剤耐性)との闘いに人類は勝てるのか? (監訳)
専門医が教える 新型コロナ・感染症の本当の話